

日刊 動労千葉

83.11.28

No. 1503

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四七二二二七二〇七

闘争も 原則的に闘おう！ 鉾子支部定期大会

支部第四回定期大会は、十一月十四日、本部より中野委員長を迎え、全組合員の九五パーセントの参加をかちとり、この秋の政治決戦闘争とわれわれをとりまく「59・2」、仲裁、昇給問題を中心に結合させ、闘う方針と体制を確立しました。

59・2・5名要員削減攻撃を許すな！！

大会は、予定の十時きつかりに、秋葉（副支部長）氏の力強い開会宣言で始まり、議長団には伊藤氏が選出され議事がすすめられました。冒頭挨拶にたつた宮崎支部長は、われわれをとりまく情勢の厳しくなってきたことを話され、しかしわれわれは、支部組合員の団結をかため、今日まで闘ってきた。これからも、動労「本部」のように、「敵しいから闘わない」のではなく原則的に闘っていくことを確信をもって提起されました。さらに、九月待望の家族会も結成された。この結成された家族会と共に組織強化をはかること。次に、職場の現況については、「59・2」当局提案は、全体で「五名の要員減」をだしてきている。これは、百名弱の運転区職員からすれば、重大な要員削減攻撃である。「昇給問題」は、この職場にも点在する動労「本部」派の「片仕切り」という裏切りによって年内追給はだめになってきている。とりわけ、昇給協定改悪案のなかで、3項8号にかかわる、「職場規律の厳正」、「服装の正常化」に対する闘いとして、ワッペン闘争を全員が貫徹していこう。とあいさつをされました。

満場一致で方針を決定！！

つづいて、中野委員長は、「『昇給』については、われわれは一日も早くださせることは重要なことだ。しかし、協定の中味が問題であり、われわれは、将来に影響するあのような改悪案を決して認めるわけにはいかない。『毒まんじゅう』を喰うわけにはいかない。」と述べるとともに、「仲裁・昇給問題は情勢の推移を見ながら、あらゆる戦術を駆使して闘う。特に国労との共闘を重

視し、当局の尖兵である動労「本部」や鉄労を全職場から一掃することが決定的に重要だ。この闘いは、労働組合としての原則にかかわる問題であり、スジをとす闘いである」と述べました。また「動労『本部』派の動向は、決して許してはならない。あれは、もはや労働組合ではない。今までの彼等の犯罪性を『本部』派に一人ひとりに問い、追及していかなければならない」との決意を明らかにしました。その他、地区労議長でもあり、鉾子市議でもある、佐藤氏、および労金からのあいさつのち、早船書記長から方針が提起され、質疑応答が活発に論議され、満場一致で方針が確認されました。最後に、現執行部を全員再選して大会は成功裡に終了しました。



支部通信員宛

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！！

12・15
国鉄労働者
総決起集会
を成功させよう

一日時	十二月十五日 午後五時三〇分
一場所	千葉県教育会館 (千葉市中央四一三十一 千葉地裁前)
一集会名称	「59・2ダイ改」阻止・国鉄決戦勝利 反動中曾根内閣打倒・総選挙闘争勝利
一主催	国鉄労働者総決起集会 国鉄千葉動力車労働組合